

平成19年度 専門委員会活動報告

第2部会（港湾荷役機械に関する設計、技術基準に関する調査研究）

「コンテナ荷役施設調査研究委員会」

1．調査研究テーマ

コンテナクレーン耐震・免震性能に関する調査研究（平成18年度からの継続）

2．調査研究成果

レベル2地震動に対応する要求性能・性能規定等を検討した他、長周期時震動への対応等を検討し、それらを経過報告書として整理した。

第3部会（港湾荷役機械の製作、検査、運転、メンテナンスに関する調査研究）

「付帯施設標準化調査研究委員会」

1．調査研究テーマ

コンテナクレーンの健全度に関する調査研究（平成18年度からの継続）

2．調査研究成果

本年度の調査研究においては、健全度調査の必要性があると思われるコンテナクレーンであっても設置時期、使用頻度、維持管理の程度等が異なり、健全度調査を実施すべきか否かを決定する要件が現段階では整理されていないことから、一応実施時期を概ね使用年数15年として健全度調査の基本的な考え方や手順の取り纏めを行うこととした。鋼構造物と機械設備について原案を作成したが、電気設備や調査の実施体制等のソフト部分の取り纏めが残った。これらについては、来年度に継続し、整理することとした。

第4部会（港湾荷役機械・荷役施設等の電気技術に関する調査研究）

「荷役機械用電機設備調査研究委員会」

1．調査研究テーマ

クレーンモニタリングシステムに関する調査研究（平成18年度からの継続）

2．調査研究成果

18年度と19年度の成果を報告書として取り纏めた。

機上局と地上局のシステム構成を記載し、機器構成・通信仕様を明確にした。

機能構成並びに機能概要を記載し、CMSの有する機能を解りやすく説明した。

各機能については、交流（ACインバータ）ドライブを前提に、表示内容や記録容量などの基本仕様を明確にした。

近年のコンピュータやインターネットに代表される通信技術の進歩により、アニメーション表示や遠隔監視機能などが実際に適用されていることが判った。これら機能はオプション仕様として盛り込んだ。

荷役データ管理機能については、データ管理項目の名称と仕様を決め業界での標準化を図った。また、帳票例及び参考例を添付した。